

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

なかやまきんに君
2期目の和牛応援団長に
(畜産総合対策部)

4面

「とうほく未来
Genkiプロジェクト」に協賛
(全農東北プロジェクト)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://x.gd/G3W90>



人手不足解消へ山形・福島が連携

異なる繁忙時期を利用して果樹や野菜の収穫・選果など支援

東北営農資材事業所

山形で桃袋かけ作業をする
福島からの作業員



山形県では果樹類の収穫時期が集中する春から秋にかけて労働力が必要になる一方で、福島県は浜通りを中心に冬場の露地野菜の収穫作業などで労働力を必要としています。

それぞれの異なる繁忙時期を利用して、秋までは福島県内から作業員を募集し、山形県でサクランボの収穫や、桃の袋かけ、西洋梨「ラ・フランス」の収穫・選果作業を行いました。一方、秋冬は山形県内から作業員を募集し、11月中旬か

全農は㈱JTBと連携し、農業現場の労働力不足の解決に向けて、山形県と福島県でそれぞれの繁忙期に農作業ツアーを企画して作業員を募り、産地間で人手不足を補う取り組みを行っています。

福島でブロッコリーを収穫する
山形からの作業員



ら1月末にかけて福島県の南相馬市などでブロッコリーやホウレンソウなどの収穫・調製作業を行います。

11月に南相馬市で行った作業には、山形県内のサクランボ生産者も参加し、地域や品目の違いを越えた生産者同士の交流も生まれました。今後この取り組みを東北全域に拡大できるように検討を進めていきます。



なかやまきんに君 2期目の和牛応援団長に

需要期に向けて和牛消費拡大の取り組みを加速

畜産総合対策部



和牛応援団長に就任したなかやまきんに君に安田専務(右)より任命証を贈呈



和牛のすき焼きを試食し、魅力をアピール

全農は、厳しい状況にある和牛の消費喚起に向けて「ちよっといい日に和牛をたべよう」というメッセージとともに、和牛のおいしさや魅力の発信に取り組んでいます。

イベントでは、なかやまきんに君が和牛奉行として登場。安田忠孝代表理事専務が「和牛応援団長」の任命証を手渡しました。

さらに、和牛を取り扱う店舗を簡単に検索・予約することができる食ベログとのタイアップページの開設

全農は、11月29日の「いい肉の日」に合わせて、なかやまきんに君(敬称略)を2期目の和牛応援団長に任命し、和牛消費喚起に向けた取り組みを発表するPRイベントを実施しました。

や、お客さま送料負担なしのJAタウン「ちよっといい日に和牛をたべよう」キャンペーン、新宿駅東口の大形ビジョンでの和牛焼肉の消費喚起動画の放映、こども食堂への和牛提供について発表。

イベントに集まった21媒体・37人の報道関係者に向けて、和牛消費の拡大に向けて加速して取り組んでいくことをアピールしました。

全農は今後も和牛消費の拡大に向けた取り組みを進めます。



アルゼンチンACA農協の新会長らが訪日

同国最大の農協連合会、JAビルも表敬訪問

畜産生産部



フラス新会長(右)と折原会長

ACA農協は、1922年に設立され、アルゼンチン全土で約5万人の生産者と137の地域農協を束ねる農協連合会です。

全農は、飼料原料の安定調達のために産地多元化を進めており、その一環としてACA農協との間で、アルゼンチン産の穀物・油糧種子取引に係る国際農協間取引協定を締結しています。今回の訪問では、両組織がこれからも共に協力して歩んでいくことが確認されました。

全農の折原敬一経営管理委員会会長と役員は12月4日、JAビルを表敬訪問したアルゼンチン最大の農協連合会であるACA農協のフランシスコ・ファラス新会長(2024年11月選出)、リカルド・ウラジジューク本部長、アレシヤンドロ・ベルトーネ副本部長と懇談しました。



「京式部」新CMを公開

コンセプト「老舗料亭が認めるお米」を表現

京都府本部



「京式部」新CMでブランドコンセプトを表現



京都府本部が事務局を務める京式部ブランド推進協議会は11月18日、京都府ブランド米「京式部」の新CMを公開しました。

CMは、子どもが和室で精米袋を抱くシーンから「京式部」の上品さを、ごはんを口いっぱい頬張る様子から「京式部」のおいしさを描いています。撮影は京都らしさを感じさせる鴨川、最後の文人画家として知られる富岡鉄斎の旧邸宅で行い、ブランドコンセプトである「老舗料亭が認めるお米」を表現した内容となっています。

新CMは京都府公式YouTubeチャンネルで公開中です。



JA安房と協力してマルシェ

担い手生産者が交流、地域農業の魅力を発信

千葉県本部



JA安房ブランドの農畜産物を販売

千葉県本部は12月7日、JA安房と協力しイオンタウン館山店でJA管内の担い手生産者とともに、JAと地域農業をPRするマルシェイベントを開催しました。

JA安房特産の神戸レタスや南房総レモン、ストックなど、彩り豊かな品目を取りそろえた会場では、ネギ、レタス、食用ナバナがすぐに完売するなど、多くの家族連れでにぎわうとともに、担い手生産者同士の交流の場にもなりました。

また、お米のプレゼントくじとして設置したガチャガチャ機には子どもたちが集まり、楽しんで引いていました。さらに会場では、農畜産物の再生産可能な適正価格を呼びかけるポスターを掲示し、来場客への理解醸成を図りました。

全農
プロジェクト
東北

「とうほく未来Genkiプロジェクト」に協賛 耕種総合対策部の岩田次長もパネリストに 総括フォーラムで米価格の消費者理解訴え

全農東北プロジェクトは11月24日、東北七新聞社協議会主催の「とうほく未来Genkiプロジェクト」総括フォーラムに参加しました。パネルディスカッションでは、東北の農業・食の現状と本会の課題解決に向けた取り組みを紹介するとともに、今年の米価格の高騰について消費者の理解を呼びかけました。

【全農東北プロジェクト】



東北七新聞社の各社長による共同宣言

全農東北プロジェクトは、東北6県の新聞7社で構成される東北七新聞社協議会主催の「とうほく未来Genkiプロジェクト」に協賛し、東北の課題克服や活力ある「とうほくの未来」に向けて『東北の人のこと』を発信しています。

仙台国際ホテル（宮城県）で開催された今年の総括フォーラムには、約4000人が集まりました。今年「奏でる東北」をテーマに、東北内外の人々の思いや知見、農業・食の観点から新たな東北の価値を提案しました。

パネルディスカッションでは、パ



東北の今後を考えるパネルディスカッション

ネリストとして明治安田生命保険相互会社の森口高志執行役員、㈱アキウツリズムフアクトリーの千葉大貴代表のほか、全農からは耕種総合対策部の岩田和彦次長が登壇し、東北の現状と課題解決に向けた提言を行いました。

岩田次長からは東北農業の現状と課題、全農と全農東北プロジェクトによる課題解決に向けた取り組み、みのりみのる店舗やJATAタウンで開催中の東北フェアについて紹介しました。



岩田次長が全農の取り組みを紹介

さらに、今年の米価格の高騰に対する消費者理解の醸成に向け、「米を生産するためのコストが高騰する中、生産者が米の生産を今後も継続していくためには、生産を維持できる販売価格について消費者に理解していただき、より一層国産米を食べたいことが重要。一緒に東北の農業を育ててほしい」と呼びかけました。

基調講演では、宮城県出身でコメンテーターの玉川徹氏と山形県在住の作家・柚月裕子



消費者理解醸成に向けて来場者に配布したチラシ

氏から東北の未来と魅力についての講演がありました。総括フォーラムの最後には同協議会が「東北の潜在力を余すところなく引き出す、その一翼を担い続ける」と共同宣言を読み上げました。

また、全農東北プロジェクトは来場者の中から抽選で10人に「東北六花」大事な人に贈る東北六花」をプレゼントしたり、消費者理解醸成を呼びかけるチラシを配布するなど取り組みをPRしました。



滋賀県全体で目指す、初のオリジナルイチゴ品種

「みおしずく」のブランド化に積極的に取り組む

JA 滋賀蒲生町は、琵琶湖東部の開けた湖東平野の南端に位置しており、鈴鹿山系を源とした肥沃な農地で農業が盛んに行われ、近江米の一大産地となっています。夏は温暖で雨が多く、冬は北風が強いものの降雪は少ない気候です。

5年の歳月かけて開発 大粒で明るい赤色

近年、滋賀県では新規就

「みおしずく」は明るい赤色が特徴

農者を中心にイチゴの生産が増加しており、イチゴの優良品種が求められています。また、全国的にも各地でオリジナルイチゴ品種の開発・ブランド化が盛んに行われており、県独自の新品種の需要が高まっています。このような状況を受け、滋賀県では2016年から県の農業技術振興センターでオリジナル品種の育成を開始。5年の歳月をかけて約1600の個体から選抜を行い、21年に滋賀県初のオリジナルイチゴ「みおしずく」が誕生しました。清らかなしずくのように整った形と、適度な酸味の中に際立つさわやかな甘味やフローラルな香り、大粒で明るい赤色が特徴です。



高設栽培で作業負担を軽減

「少量土壌培地耕」で負担が少ない高設栽培

主な栽培方法は、滋賀県が開発した「少量土壌培地耕」で、害虫防除にはUVライトを使用することでできる限り農薬を減らした栽培を行っています。さらに、高設栽培により体の負担が少なく労働力も省力化できる



1600の候補から選抜された「みおしずく」

ため、環境・人にやさしい栽培方法です。

玉だし(イチゴの実が葉に重ならないように枝を配置する作業をしてイチゴにしっかりと光を当てること)で、「みおしずく」の特徴である明るい赤色が際立つように栽培していることもポイントです。

JAでは21年に「蒲生園芸推進協議会」を設立し、管内3軒のイチゴ農家が所属。



協議会で出荷研修会などを実施

定期的な出荷研修会や目合わせを行っています。県内で生産された「みおしずく」は地元スーパーの平和堂を中心にさまざまな量販店で販売しているほか、JA直売所「旬菜館さくら」でも販売しており、認知度向上や地産地消にも取り組んでいます。

JA 滋賀蒲生町 (滋賀県)



概要	2024年3月31日現在
正組合員数	757人
准組合員数	1832人
職員数	45人
販売品取扱高	8億円
購買品取扱高	5億円
貯金残高	395億円
長期共済保有高	635億円
主な農畜産物	米、麦、大豆

消費者に近い事業拠点 組合員の生活支援にも貢献

Aコープ店舗事業は、昭和中期に組合員の生活物資の供給拠点「生活センター」として、全国各地のJA経営で創業しました。以降、スーパーマーケットの効率的な運営のために、各都府県でAコープ会社を設立し、当社も2024年4月にAコープ東日本、エコープ近畿、Aコープ西日本が合併し、JA全農Aコープとして発足しました。

Aコープ店舗はJAグループの中でもっとも消費者に近い事業拠点として、生産者直売など「生産者と消費者を結ぶ懸け橋」としての機能を発揮できるものと自負しております。

また当社は農作業用品の供給や、宅配事業、葬祭事業も展開しており、今後も組合員の毎日の生活支援に貢献してまいります。



代表取締役社長
宗村 達夫 氏



群馬エリアで運営する「焼肉あぐり」



地域の暮らしを守る食材宅配事業

アでは、食材宅配サービスを展開しています。地元の農畜産物を優先的に取り扱い、新鮮で安全な食材を届けることで、「地産地消」の取り組みをサポートしています。高齢者世帯

や共働き家庭にとって便利なサービスとして好評を得ています。

4. 葬祭事業

東北エリアでは、葬祭事業を通じて地域住民のライフイベントをサポートしています。葬儀の企画運営はもちろん、事前相談やアフターフォローも含めたトータルサービスを提供しています。地域に密着した信頼性の高いサービスとして、利用者から厚い支持を受けています。JA全農Aコープは、これからも「食」と「農」を中心に、人々の暮らしを支える企業と



農業用ゴム製品を取り扱うクミックス部

しての役割を果たしていきます。地域農業の持続可能性を高める革新的な取り組みを進め、消費者の多様なニーズに応えるサービスを提供し続けるとともに、地域特化型の事業をさらに強化し、地域住民が安心して暮らせる社会の実現を目指します。



東北エリアで展開する葬祭事業

会社の概要 (2024年4月現在)

- 本社所在地** 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-2-3
EPIC TOWER SHINYOKOHAMA 8F
- 事業内容** スーパーマーケットの運営、食材宅配事業、インターネット通販事業、レストラン事業、葬祭事業、農作業用品製造事業
- 設立年月日** 2024年4月1日
- 代表者** 代表取締役社長 宗村 達夫
- 従業員数** 4100人



公式ホームページは
こちら



<https://jaz-acoop.co.jp>



「埼玉県産 あまりん苺グミ」を新発売



全農と全国農協食品(株)は「ニッポンエールグミ」シリーズの新商品として、ニッポンエール「埼玉県産あまりん苺グミ」を開発しました。 【営業開発部・全国農協食品】



ニッポンエール
「埼玉県産あまりん苺グミ」



ニッポンエール「埼玉県産あまりん苺グミ」は、埼玉県本部が供給する埼玉県オリジナル品種のイチゴ「あまりん」のピューレを使用しています。

「あまりん」は、際立つ甘みとジューシーで深い味わいが特長のイチゴで、ニッポンエールのグミを通じて「あまりん」の濃厚な甘みが楽しめます。全国農協食品(株)を販売者として、「あまりん」が店頭に並ぶ冬の時期に合わせ、1月20日から全国の量販店を中心に販売します。

「手作りこんにゃくの精粉」で消費拡大へ

作り方動画を公開、混ぜ方・ゆで方など詳しく紹介

群馬県本部と群馬県蒟蒻生産協会は、特産品のこんにゃくの消費拡大を呼びかけるため、JAタウンで販売中の「手作りこんにゃくの精粉」を使用したこんにゃくの作り方を公開しました。 【群馬県本部】

動画では、商品に寄せられた声を踏まえ、必要な調理器具や精粉を混ぜ合わせる際に目安となる形状、ゆで上がりのタイミングなどを、映像を通して効果的に紹介しています。

担当者は、「動画の手順に沿って実践することで、誰でも簡単にこんにゃくを作ることができます。手作りのおいしさを楽しみ、食育の教材としても活用してもらいたい」と期待を込めました。動画は12月18日から群馬県本部のYouTubeやInstagram、ホームページなどで公開しています。



※群馬県産こんにゃく芋を使用した「手作りこんにゃくの精粉」は、精粉と凝固剤がセットになった商品です。青のりやとうがらしを加えることでオリジナルのこんにゃくを作ることができます。



手作りこんにゃくの手順を動画で解説

YouTubeはこちら



JA全農の産地直送通販サイト

正直やまぐち

「徳地やまのいも」は、山口県山口市徳地地区で生産される伝統野菜で、地理的表示 (GI) 保護制度にも登録されています。生産地では有機物を多く含む肥沃で乾燥しない土壌を生かし、良質な「徳地やまのいも」が栽培されています。その歴史は古く、江戸時代後期から栽培されていた記録が残っています。

「徳地やまのいも」の特徴は、野球のグローブや拳のような形状で、すりおろすと強い粘りと甘みを存分に堪能できます。

レシピと共にお届けしますので、さまざまな食べ方で「徳地やまのいも」のおいしさをお楽しみください。



「徳地やまのいも」(秀) 2kg
…6600円(税込み)

ご注文はこちら



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

